

くす通信

第246号
2021年8月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

耳鼻咽喉科より

アレルギー性鼻炎について

薬剤部より

アレルギー性鼻炎の薬物療法について



8月

「くす(樟)」の由来について

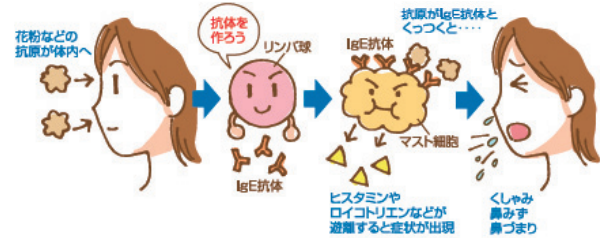
くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。



薬剤師から説明! アレルギー性鼻炎の薬物療法について

薬剤部
主任薬剤師
(薬務主任)
川崎 恵美
かわさき けいみ

◆ どうしておこるの？



「日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会」作成「アレルギー性鼻炎ガイド」より

- 1 抗原(アレルギーのもと)が体内へ侵入すると、リンパ球が抗体(IgE)を作ります。
- 2 抗原と抗体(IgE)がアレルギーに関わるマスト細胞にくっきます。
- 3 マスト細胞は化学伝達物質(ヒスタミン・ロイコトリエンなど)を遊離します。



ヒスタミン → 神経を刺激 → くしゃみ・鼻みず



ロイコトリエンなど → 血管を刺激 → 鼻づまり

◆ 薬物治療は？

症状や重症度に応じて①～⑦を選択、あるいは組み合わせます。

① 抗ヒスタミン薬

(主な一般名：フェキソフェナジン、エピナスチン、オロパタジン、セチリジンなど)

ヒスタミンが作用するところをブロックするため、くしゃみ・鼻みずに効果があります。市販薬も含め多く販売されており、その中には眠気・口渇等の副作用が少ないものもあります。

② 化学伝達物質遊離抑制薬

(主な一般名：クロモグリク酸ナトリウム、トラニラストなど)

マスト細胞からの化学伝達物質の遊離を抑えます。既に起こっている鼻炎には効果がなく、予防で使用しますが、効果に1～2週間必要です。

③ Th2サイトカイン阻害剤(一般名：スプラタストシル酸塩)

IgE抗体をつくるリンパ球にはたらき、抗体を作りにくくします。

④ 抗ロイコトリエン薬

(一般名：プラナルカスト、モンテルカスト)

ロイコトリエンが作用するところをブロックするため、鼻づまりに効果があります。眠くなる成分はありません。効果が出るのに数日～4週間かかります。



⑤ 鼻噴霧用ステロイド薬

(一般名：フルチカゾン、モメタゾンなど)

くしゃみ、鼻みず、鼻づまりに等しく高い効果があります。全身に吸収されず鼻の粘膜だけに作用するためステロイド薬の副作用がほとんどありません。

⑥ アレルゲン免疫療法

原因の抗原を少しずつ投与し身体に慣らしていく治療法です。約7割は効果あり、根治することもあります。2018年に錠剤が販売され(スギ花粉・ダニアレルゲン)、1分程度薬を舌下で保持できる年齢(5歳くらい)から治療可能です。約3年通院が必要です。

NEW

⑦ 抗体療法(一般名：オマリズマブ)

IgE抗体とマスト細胞がくっつくのを邪魔するので高い効果があります。2020年にスギ花粉症で保険適用されました。他の薬を使用しても症状が重い人など、使用には条件があります。

NEW

⑧ その他

- ・漢方薬
- ・プロスタグランジンD2・トロンボキサンA2受容体拮抗薬：鼻づまりに効果。眠くなりません。
- ・経口ステロイド薬：ステロイド薬としての副作用もあるため、短期間で使われます。
- ・点鼻用血管収縮薬：鼻づまりにすぐ効きますが、長く使うと自力で鼻粘膜の血管を収縮させる力が段々弱まっていき、かえって鼻づまりがひどくなります。市販薬に多く含まれるため使用時は注意!!

- 新しい薬により治療の選択肢が広がっています
- 花粉症は、花粉シーズン前に薬を始めると効果UP(飛散予測をチェック)
- 市販薬は買う前に、一度は医師の正確な診断を受けてから。薬剤師に相談して購入を



「日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会」HPの「アレルギー性鼻炎ガイド」もご覧ください。



アレルギー性鼻炎 について

耳鼻咽喉科医師
しもだ ゆう
志茂田 裕



アレルギー性鼻炎について

アレルギー性鼻炎は、花粉やハウスダストなどのアレルギーの原因となる物質（アレルゲン）によって生じる病気で、スギやヒノキなどの花粉がアレルゲンとなるものを季節性（通称：花粉症）、ハウスダストやダニなどがアレルゲンとなるものを通年性と分類しています。症状はくしゃみ・鼻水・鼻づまり・目のかゆみなどの他、頭重感・咳・のどの痛みなど風邪のような症状を来す場合もあります。鼻炎症状が進行すると日常生活のパフォーマンスが低下し、勉強・仕事・家事などに支障をきたすとされており、早めに治療を始めることが重要です。

治療においてはアレルゲンの除去と回避が重要です。その上で症状に応じて薬物療法やアレルゲン免疫療法、手術療法を組み合わせていきます。

1 アレルゲンの除去・回避

季節性の場合、外出時に眼鏡・マスクを着用する、花粉の付きにくい服（表面に凹凸の少ない素材）を着用する、外出から戻ったら花粉をよく払い落とす、うがい・洗顔を行う、洗濯物を屋外に干さない、などの対応があります。通年性の場合には掃除機をこまめにかける、寝具をこまめに洗濯する、ぬいぐるみや布素材のソファをできるだけおかない、空気清浄機を使用する、部屋の風通しを良くするなどの対応が挙げられます。

2 薬物療法

現在では多種多様な薬剤が開発されており、年齢や症状、生活環境などを鑑みながら、内服薬・点鼻薬・貼付薬・

注射薬などを使い分けて治療を行います。「鼻炎薬は眠くなる」というイメージがある人も多いかもしれませんが、最近では眠気のほとんど出ない薬も存在しています。

3 アレルゲン免疫療法

症状の原因となっているアレルゲンをあえて投与することで、アレルゲンが体内に入ってきたときの症状を緩和する治療です。アレルギー性鼻炎の根治療法として注目されています。しかし治療に際しては年単位の長期通院が必要になるため、通院のしやすさが重要となります。そのため本治療をご希望の患者さまについては、お近くの耳鼻科へご紹介させていただいております。

4 手術療法

アレルギー性鼻炎を治癒させる治療ではありませんが強い症状を緩和させる目的で、手術を行う場合があります。鼻汁の分泌を抑制するために鼻粘膜を焼灼したり、鼻汁を分泌させる神経を切断したりします。また、鼻腔の骨や軟骨などの変形により物理的に鼻づまりを来している場合は、それを一部除去する方法があります。

🌸🌸🌸🌸 アレルゲンの除去と回避 🌸🌸🌸🌸
アレルギーを予防しよう!! 一例を絵で分かりやすく紹介します🐣

季節性		通年性	
外出時に眼鏡とマスクを着用する	うがい	こまめに掃除機をかける	ぬいぐるみや布素材のソファをできるだけ置かない
洗濯物を屋外に干さない	洗顔をする	空気清浄機を使用する	部屋の風通しを良くする
	など...		など...

耳鼻咽喉科の紹介

当科では、2018年10月より常勤医二人体制で、主に開業の先生方からご紹介いただいた患者さまと救急外来を受診された耳鼻科救急疾患（鼻出血・めまいなど）の患者さまを中心に耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般の診療を行っております。手術は慢性中耳炎などの耳科手術から副鼻腔炎などの鼻科手術、扁桃摘出術などの口腔・舌手術、声帯ポリープなどの喉頭疾患に対するレーザー手術、唾液腺・甲状腺腫瘍に対する頭頸部外科手術、誤嚥防止術など幅広く行っております。悪性疾患に対する手術も可能な限り行っておりますが、再建手術が必要になるような進行がんの場合は大学病院などへ紹介させていただくこともあります。

国立病院機構熊本医療センター

- 診察日 月曜日～金曜日
 - 休診日 土・日曜日及び祝日
年末年始（12月29日～翌年1月3日）
 - 受付時間 8：15～11：00
- 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5
TEL 096(353)6501(代表)
FAX 096(325)2519
H P <https://kumamoto.hosp.go.jp/>

※ 形成外科のみ受付は、水曜日以外の13:30～16:30となります。

※ 一部の科では、午後に予約診療を行っていますが、新患、予約のない方の午後診療は行っておりません。急患はいつでも受診できます。